

環境マネジメントシステム導入報告書

| | |
|---|--|
| (宛 先) 京 都 府 知 事 | 平成26年 7月 25日 |
| 報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 | 報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) 株式会社 GSユアサ 代表取締役 依田 誠 |

| | |
|--|---|
| 環境マネジメントシステムの名称 | ISO14001 |
| 適用範囲 | 京都事業所 |
| 導入年月日 | 1997年 12月 24日 |
| 認証番号 | EC97J1151 |
| 基本方針 | GSユアサ グループ環境基本方針に基づき、当事業所の事業活動(バッテリーをはじめ、電源システム、照明機器等の開発・製造・販売)、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、当事業所内の全階層において目的・目標、プログラムを設定し環境マネジメントシステム及びパフォーマンスの継続的改善を図り、環境対応型社会に貢献する。 |
| 環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。) | 2013年度取り組み目標(抜粋) ①省エネルギー(CO2原単位) ~2012年度比1.0%削減 ②上水使用量削減 ~2012年度比0.5%削減 ③下水排出量(原単位)削減 ~2012年度比0.5%削減 ④産業廃棄物 ~総排出量削減のための現状調査 ⑤製品開発・販売 ~業務用車用電池の軽量化 「イドリックストップ」用電池の拡販 LED高天井灯の拡販 |
| 目標を達成するための取組の内容 | ①省エネルギー(CO2原単位)~ 省エネ設備の導入 設備等の運転方法改善 不良率の低減 ②上水削減 ~使用内容詳細調査による個別対応 ③下水(原単位)削減~循環水化の推進、社水の使用抑制 ④産業廃棄物 ~自社排出物の内容詳細調査。他事業所事例学習。 ⑤製品開発・販売 ~計画に基づく開発・販売進捗 |
| 目標を達成するための取組の進捗状況 | ①省エネルギー(CO2原単位)~ 予定通り省エネ設備・機器導入済。 ②上水削減~ 使用量メーターの増設完了。使用量管理活動を強化。 ③下水削減~ 循環水適正使用の推進中。 ④産業廃棄物~ 7月に他事業所事例を学習。その後、廃プラスチックの抑制を検討。 ⑤製品開発・販売~開発テーマは計画通り進捗。一部客先の都合により製造、販売が遅延になったテーマがある。 |
| 目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価 | ①省エネルギー 一部事業で売上高が落ち込んだが、ドライルームなど必要設備は常に稼働しているため、原単位が悪化した。また生産に寄与しない研究開発等の電力の増加があり原単位が悪化した。 ②上水 上記対策により目標を達成した。 ③下水 上記対策により目標を達成した。 ④廃棄物 他事業所事例の学習、現状確認、総量削減手段の模索を行うも、効果的な削減取組を見いだせず。2013年度は有価物も含めた削減取組を行うこととした。 ⑤製品開発販売~当初計画どおりに開発できた。一部の製造・販売については計画延期の為未達成。 |
| 事業活動に係る法令の遵守の状況 | 順守すべき法規制や規定などを定期的に見直し、モニタリング活動などを通じて、その順守状況を管理している。 結果、コンプライアンスに障る様な違反は起こしていない。また、環境関連の訴訟、罰金、過料なども発生していない。 |
| 環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容 | ISO14001に定めるマネジメントレビューにより、原則として毎年1回評価・見直しを行っている。 平成26年度活動については、①製品テーマを通じての社会貢献をより重視する。②前年度未達成となった省エネについて挽回する。③水質汚濁防止法(漏水防止)への対応を強化する。 ことを柱に方針および目的・目標を見直した。 |

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。